

取扱説明書 < 別冊 > (CD-R/RW ドライブ搭載の MR16 専用)

CD-R/RW ドライブの使用方法

本書は取扱説明書の別冊版で、内蔵 CD-R/RW ドライブ (または [USB HOST] ポートに接続する外部 CD-R/RW ドライブ) を使って、CD-DA のオーディオ CD を作成する方法を記載しています。また、内蔵 CD-R/RW ドライブを使用する場合は、**オーディオ CD の作成**以外に CD-DA ディスクからトラック・データをインポートしたり、モノ WAV ファイルのエクスポート / インポートが可能で、それらの操作方法についても記載しています (注意: 外部 CD-R/RW ドライブでは、オーディオ CD の作成のみが可能です)。

CD-R/RW ドライブを使ってオーディオ CD を作成するには、本書 3 ページの「**ご使用前にお読みください**」と、5 ページの「**オーディオ CD を作成する前に (ステレオ WAV ファイルの再生)**」は、必ずお読みください。

Fostex®

目 次

ご使用前にお読みください.....	3
使用可能なCD-R/RWディスクについて.....	3
CD-R/RWディスクの取り扱いについて.....	3
オーディオCDに作成できるトラック・データについて.....	4
オーディオCDを作成する前に(ステレオWAVファイルの再生).....	5
再生するステレオWAVファイルの選択.....	5
ステレオWAVファイルの再生.....	6
CUEポイントの登録.....	6
内蔵CD-R/RWドライブによるオーディオCDの作成.....	9
TOC情報の確認.....	13
ファイナライズ処理前のTOC情報を確認.....	13
ファイナライズ処理後のTOC情報を確認.....	14
CD-DAディスクのトラック・データをインポート(コピー).....	15
モノWAVファイルに変換してエクスポート(コピー).....	17
モノWAVファイルをインポート(コピー).....	19
外部CD-R/RWドライブによるオーディオCDの作成.....	22
TOC情報の確認.....	26
ファイナライズ処理前のTOC情報を確認.....	26
ファイナライズ処理後のTOC情報を確認.....	27

ご使用前にお読みください！

内蔵CD-R/RWドライブ(または外部CD-R/RWドライブ)をご使用いただく前には、必ず下記事項をお読みください。

使用可能なCD-R/RWディスクについて

内蔵のCD-R/RWドライブ(および[USB HOST]ポートに接続する外部CD-R/RWドライブ)では、下記マークの付いたディスクが使用可能です。



< CD-R ディスク >

新品で、かつ記録可能な領域が十分なディスクであれば、ファイナライズ処理するまで追記録が可能です(“Track at once”モードのみ追記可能)。



< CD-RW ディスク >

新品で、かつ記録可能な領域が十分なディスクであれば、ファイナライズ処理するまで追記録が可能です(“Track at once”モードのみ追記可能)。



< CD ディスク >

市販のオーディオCDなど、このマークが付いたディスクはTOCのみ確認でき、記録することはできません。

< 注意 >：内蔵CD-R/RWドライブ(および外部CD-R/RWドライブ)では、CD-DAフォーマットで記録したオーディオCD(または市販のオーディオCD)を再生することはできません。

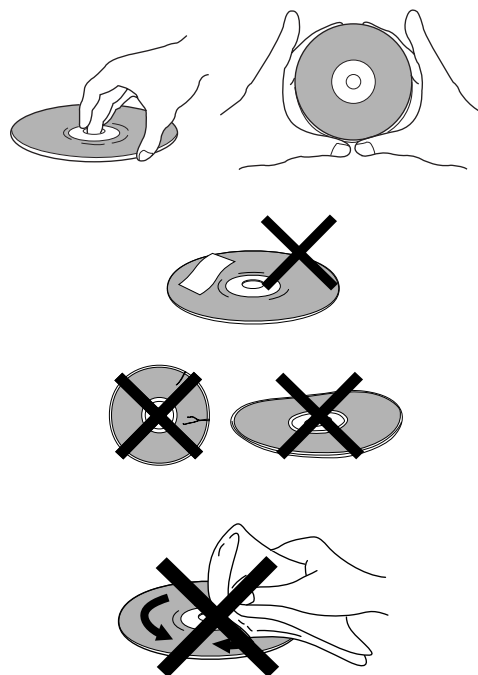
CD-R/RWディスクの取り扱いについて

CD-R/RWディスクを持つ場合は、信号面に指紋やホコリ、傷などが付かないよう気を付けてください。ディスクの両端をはさむように持つか、ディスク中央の穴と端を挟んで持ってください。

ディスクのレーベル面に、紙やシールを貼らないでください。特に、レーベル面に傷を付けないでください。傷が付くと記録/再生ができなくなることがあります。また、レーベル面には、市販のフェルト・ペン、またはそれと同等のペン以外は使用しないでください。先の硬いペン(ボールペン、エンピツなど)などは、絶対に使用しないでください。ディスクを破損させてしまいます。

ヒビが入ったり、反っているディスクは、絶対に使用しないでください。ドライブの故障の原因となります。

ディスクにホコリや指紋などの汚れが付いた場合には、柔らかく乾いた布、またはエチルアルコールを含ませた布で、ディスクの内周から外周方向へ軽く拭いてください。ディスクの円周方向へは拭かないでください。

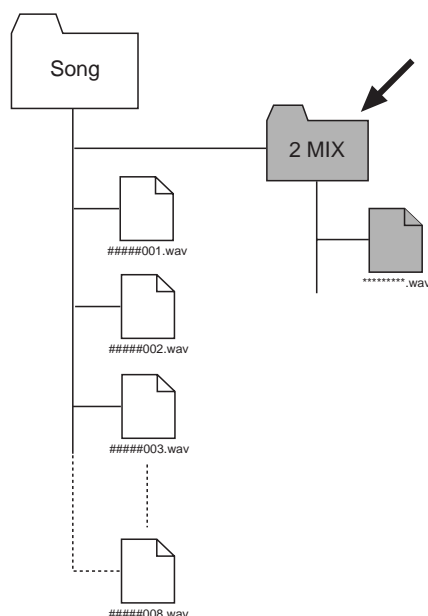


オーディオ CD に作成できるトラック・データについて

CD-DA フォーマットのオーディオ CD が作成できるのは、下記いずれかの方法でトラック 15/16 にバウンスしたデータ（完パケした曲）を、ステレオ WAV ファイルに変換したトラック・データです。

- (1) トラック 1 ~ 14 をトラック 15/16 にバウンスしたモノ・ファイルを、ステレオ WAV ファイルに変換したトラック・データ
- (2) トラック 1 ~ 16 を New ソングのトラック 15/16 へバウンスしたモノ・ファイルを、ステレオ WAV ファイルに変換したトラック・データ

バウンスについての詳細は、取扱説明書・本文の 75 ~ 88 ページを参照し、トラック 15/16 のデータをステレオ WAV ファイルに変換する詳細は、同じく 104 ~ 106 ページを参照してください。



本機では、トラック 15/16 にバウンスした曲をステレオ WAV ファイルに変換すると、その WAV ファイルは変換元のソング・フォルダー内にある “2 MIX フォルダー” に格納されます（左記図を参照）。詳細は取扱説明書・本文の 108 ページにも記載されています。

内蔵 CD-R/RW ドライブや、外部 CD-R/RW ドライブを使ってオーディオ CD を作成するには、この “2 MIX フォルダー” に格納されているステレオ WAV ファイルのみが CD-R/RW ディスクへ記録されるようになっています。

そのため、希望のステレオ WAV ファイルを選択するには、あらかじめステレオ WAV ファイルが格納されているソングを立ち上げておく必要があります（下記 < 注意 > をお読みください）。

< 覚えておきましょう！ > : 2MIX フォルダーに格納されているステレオ WAV ファイルは、オーディオ CD を作成する前に “2MIX ファイルの再生モード” で再生して確認したり、ステレオ WAV ファイルに CUE が登録できます。特に、ライブ録音など複数の曲が記録されているステレオ WAV ファイルをオーディオ CD にする場合、各曲の頭に CUE を登録しておくことで隙間のないトラック分割が可能になります。この場合、オーディオ CD を作成する過程で選択するバーニング・モードは、 “Disk at once” を選択します（CUE の登録については、次ページから記載の 「ステレオ WAV ファイルの再生」 を参照してください）。

< 注意 > : ステレオ WAV ファイルを再生したりオーディオ CD を作成するには、変換されたステレオ WAV ファイルが格納されているソングを立ち上げておく必要があります（下記例を参照）。

< 例 > : 5 つのソング（01 ~ 05）が HDD に記録されている状態で、記録したいステレオ WAV ファイルがソング 03 の “2MIX フォルダー” に格納されている場合。

操作を開始する前に必ずソング 03 を立ち上げておく。

希望のソングを立ち上げるには、MENU モードの “Song” メニューにある “Select Song” で選択します。“Select Song” の詳細は、取扱説明書・本文の 114 ページを参照してください。

オーディオ CD を作成する前に (ステレオ WAV ファイルの再生)

本機には、CD-DA フォーマットのオーディオ CD を作成するために変換したステレオ WAV ファイルを再生する、“2MIX ファイルの再生モード”を備えています。この再生モードを利用して、オーディオ CD を作成する前にステレオ WAV ファイルを再生して確認したり、ステレオ WAV ファイルに CUE を登録することができます。

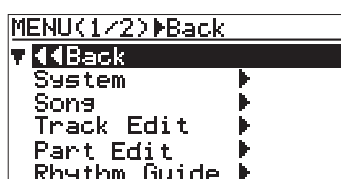
< 注意 > : “2MIX ファイルの再生モード”は、オーディオ CD の作成用に変換したステレオ WAV ファイルがソングの“2MIX フォルダー”に格納され、かつそのソングが立ち上がっていることが必須です。“2MIX フォルダー”にステレオ WAV ファイルが格納されていないソングでは、“2MIX ファイルの再生モード”は機能しません。なお、“2MIX ファイルの再生モード”では、ステレオ WAV ファイルの再生と CUE の登録 / 編集のみが可能で、オーディオ・データの記録やトラック / パートなどの編集は行なえません。

再生するステレオ WAV ファイルの選択

現在立ち上がっているソングの“2MIX フォルダー”から、再生したいステレオ WAV ファイルを選択します。下記操作は、ステレオ WAV ファイルが格納されているソングが立ち上がっていることを前提にしています。

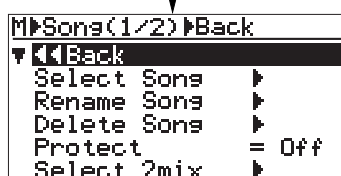
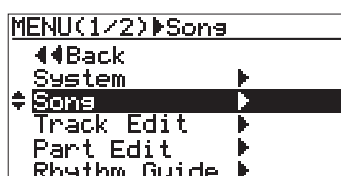
- 1) 停止状態で [ENTER] キーを押して、MENU モードへ入ります。

MENU 選択の 1 ページ目の画面に変わります。
初めて MENU モードへ入ったときは“◀ Back”が反転します。



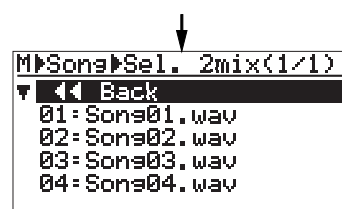
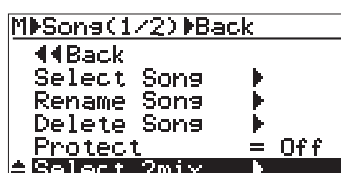
- 2) [MENU] ダイアルで“Song ▶”を選択して、[ENTER] キーを押します。

ソングの編集メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで“Select 2mix ▶”を選択して、[ENTER] キーを押します。

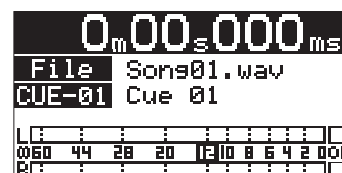
現在立ち上がっているソングの“2MIX フォルダー”内にある、ステレオ WAV ファイルのリスト画面に変わります。



< 注意 > : 現在立ち上がっているソングの“2MIX フォルダー”内に、ステレオ WAV ファイルが格納されていない場合は、“No stereo files!” のポップアップ表示が点灯した後、“Select 2mix ▶”が反転する画面に戻ります。このような場合は、MENU モードから一旦抜け出し、ソングを選択し直してください。

- 4) [MENU] ダイアルで再生したいステレオ WAV ファイルを選択して、[ENTER] キーを押します。

“2MIX ファイルの再生モード”の Home 画面に変わります。

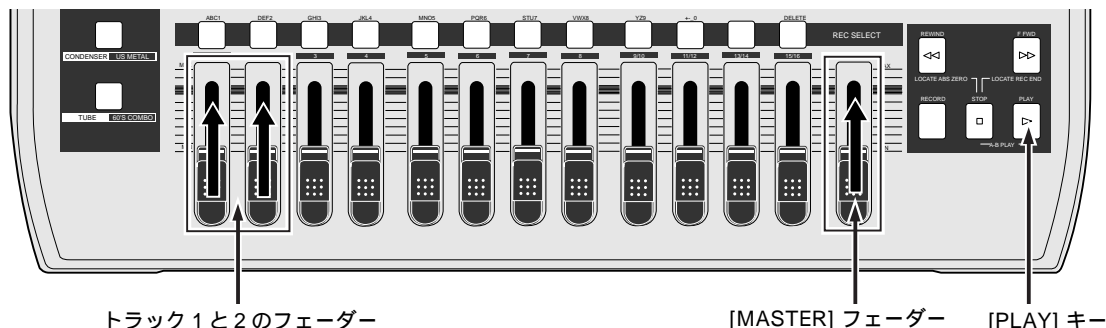


この Home 画面が表示されている状態で、ステレオ WAV ファイルを再生したり、CUE が登録できます。

< 注意 > : “2MIX ファイルの再生モード”の Home 画面から抜け出すには、操作 1 ~ 2 を実行した後、“Select Song ▶”を選択して [ENTER] キーを押してください。その後 [MENU] ダイアルで希望のソングを選択して [ENTER] キーを押すと、通常のソングが立ち上がります。

ステレオ WAV ファイルの再生

“ 2MIX ファイルの再生モード ” の Home 画面が立ち上がっている状態で [PLAY] キーを押して、ステレオ WAV ファイルを再生します。選択したステレオ WAV ファイルのトラック・データは、L チャンネルがトラック 1 に立ち上がり、R チャンネルがトラック 2 へ立ち上がります。そのため、ステレオ WAV ファイルの再生レベルは、本機のトラック 1 と 2 のフェーダーでコントロールします。

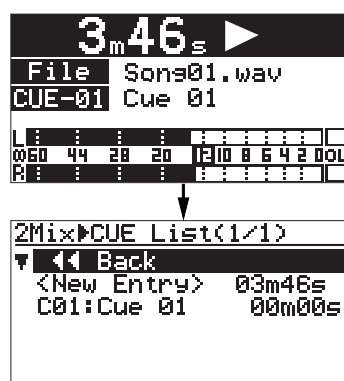


CUE ポイントの登録（1 ファイル最大 99 個の CUE が登録可能）

“ 2MIX ファイルの再生モード ” では、再生しながら（または停止状態で）任意に CUE を登録することができます。CUE を登録したステレオ WAV ファイルを “ Disk at once ” でオーディオ CD を作成すると、登録した CUE リストを基に TOC (Table of contents) が作成されます (“ Disk at once ” の詳細は、後述 10 ページを参照してください)。特に、ライブ録音のように 1 つのステレオ WAV ファイルに複数の曲が記録されている場合、各曲の頭に CUE を登録することで、トラックが分割されて CD-R/RW ディスクに記録できます。

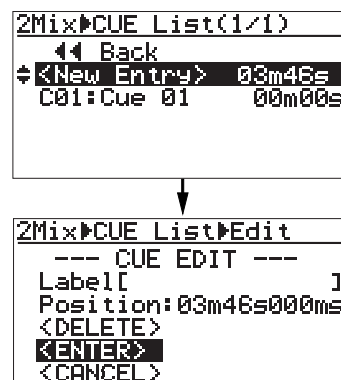
- 1) [PLAY] キーを押してファイルを再生しながら、CUE を登録したい位置で [STORE] キーを押します（停止状態でも構いません）。

CUE リストの画面に変わります。CUE が何も登録されていないリスト画面では、下記例のように “ <New Entry> ” と “ C01 ” が表示されます。“ <New Entry> ” は新たな CUE を登録するときに使用し、右には [STORE] キーを押したときの時間が表示されます。



< 注意 > : “ <New Entry> ” の下に表示されている “ C01: Cue 01 00m00s ” は、ファイルの先頭を示す CUE で、自動的に登録されます。なお、この CUE は削除したり編集することはできません。

- 2) [MENU] ダイアルで “ <New Entry> ” を選択して、[ENTER] キーを押します。
“ <ENTER> ” が反転する画面に変わります。



< 覚えておきましょう! > :

上記画面の状態からつぎの操作-3を実行すると、CUE ラベルは未設定のまま登録されます。ただし、CUE の登録後でもラベルは設定可能です。CUE を登録する前、または登録後にラベルを設定するには、次ページの「CUE ラベルの入力方法」を参照してください。

- 3) “ <ENTER> ” が反転している状態で、[ENTER] キーを押します。
[STORE] キーを押したときの時刻が、CUE02 として登録されます。ここでは例として、CUE ラベルは空白のまま登録します。

```

2Mix▶CUE List▶Edit
--- CUE EDIT ---
Label[ ]
Position:03m46s000ms
<DELETE>
<ENTER>
<CANCEL>

```

```

2Mix▶CUE List(1/1)
◀◀ Back
▶▶ <New Entry> 03m46s
C01:Cue 01 00m00s
C02: 03m46s

```

<注意>：新たに登録しようとする時間の前後4秒以内に既存のCUEが登録されている場合は、“Error Overlap Position!” のポップアップ警告が表示され、登録できません。

4) [STOP] キーを押して、“2MIXファイル再生モード”のHome画面に切り換えます。

引き続きCUEを登録するには、同じ要領で操作-1～操作-4を繰り返してください。

下記図は、再生しながら（または停止中）複数のCUEを登録した画面の例です。

```

2Mix▶CUE List(1/1)
◀◀ Back
▶▶ <New Entry> 13m26s
C01:Cue 01 00m00s
C02: 03m46s
C03: 08m38s
C04: 13m26s

```

なお、未設定のまま登録したCUEラベルの設定や、タイム・データの編集、および不要なCUEを削除するには、右記および次ページの操作方法を参照してください。

5) 登録後 [STOP] キーを押すか、画面上にある“◀◀ Back”を選択して [ENTER] キーを押します。

登録画面から抜け出し、“2MIXファイルの再生モード”のHome画面に変わります。

<覚えておきましょう！>：

“2MIXファイルの再生モード”のHome画面からソングのHome画面に変えるには、下記操作を行ってください。

- 1) “2MIXファイルの再生モード”のHome画面から、[ENTER] キーを押してMENUモードへ入ります。
- 2) [MENU] ダイアルで“Song ▶”を選択して [ENTER] キーを押します。
- 3) [MENU] ダイアルで“Select Song ▶”を選択して [ENTER] キーを押します。
- 4) [MENU] ダイアルで希望のソングを選択して [ENTER] キーを押します。

<覚えておきましょう！>：

CUEリスト画面から、[MENU] ダイアルで任意のCUEを選択した状態で [LOCATE A/IN] キー、または [LOCATE B/OUT] キーを押すと、登録されているCUEポイントへ、速やかにロケートできます。

CUE ラベルの入力方法

未入力のまま登録したCUEラベルは、つぎの手順で入力します。下記操作は、“2MIXファイルの再生モード”のHome画面が立ち上がっていることを前提としています。

1) 停止状態で [STORE] キーを押します。

下記例のような登録画面に変わります。

```

2Mix▶CUE List(1/1)
◀◀ Back
▶▶ <New Entry> 13m26s
C01:Cue 01 00m00s
C02: 03m46s
C03: 08m38s
C04: 13m26s

```

2) [MENU] ダイアルで希望のCUEを選択して、[ENTER] キーを押します。

例として“C02”を選択すると、“<ENTER>”が反転する画面に変わります。

```

2Mix▶CUE List(1/1)
◀◀ Back
<New Entry> 13m26s
C01:Cue 01 00m00s
▶▶ C02: 03m46s
C03: 08m38s
C04: 13m26s

```

```

2Mix▶CUE List▶Edit
--- CUE EDIT ---
Label[ ]
Position:03m46s000ms
<DELETE>
<ENTER>
<CANCEL>

```

3) [MENU] ダイアルで“Label []”を選択して、[ENTER] キーを押します。

[] 内左端にカーソルが点滅して、ラベルの入力が可能になります。

```

2Mix▶CUE List▶Edit
--- CUE EDIT ---
Label[ ]
Position:03m46s000ms
<DELETE>
<ENTER>
<CANCEL>

```

```

2Mix▶CUE List▶Edit
--- CUE EDIT ---
Label[ ]
Position:03m46s000ms
<DELETE>
<ENTER>
<CANCEL>

```

点滅

文字入力キーを使って、任意の CUE ラベルを入力します。異なった文字入力キーを押すと、カーソルは自動的に移動しますが、同じキーを使い続けて入力するときは、[MENU] ダイアルでカーソルを移動してください。
ここでは例として、CUE ラベルに “ Cue 02 ” を入力します。

- 4) 入力後 [ENTER] キーを押します。
“ Label [Cue 02] ” が反転する画面に変わります。

```
2Mix>CUE List>Edit
--- CUE EDIT ---
Label[Cue 02]
Position:03m46s000ms
<DELETE>
<ENTER>
<CANCEL>
```

↓

```
2Mix>CUE List>Edit
--- CUE EDIT ---
Label[Cue 02]
Position:03m46s000ms
<DELETE>
<ENTER>
<CANCEL>
```

- 5) [MENU] ダイアルで “ <ENTER> ” を選択して、[ENTER] キーを押します。
入力した CUE ラベルが登録され、下記画面に変わります。

```
2Mix>CUE List>Edit
--- CUE EDIT ---
Label[Cue 02]
Position:03m46s000ms
<DELETE>
<ENTER>
<CANCEL>
```

↓

```
2Mix>CUE List(1/1)
<< Back
<New Entry> 13m26s
C01:Cue 01 00m00s
+ C02:Cue 02 03m46s
C03: 08m38s
C04: 13m26s
```

他のラベルを登録する場合、あるいは登録済みラベルを修正する場合は、同じ要領で操作を繰り返してください。

- 6) 登録後 [STOP] キーを押すか、画面上にある “ << Back ” を選択して [ENTER] キーを押します。
登録画面から抜け出し、“ 2MIX ファイルの再生モード ” の Home 画面に変わります。

“ 2MIX ファイルの再生モード ” から抜け出すには、前述 7 ページ記載の < 覚えておきましょう! > を参照して、希望のソングを選択してください。

登録済み CUE のポジションを編集

前述の「CUE ラベルの入力方法」と同じ要領で、登録済み CUE のポジション(時刻)を編集します。下記操作は、前述と同様 CUE の登録画面が表示されていることを前提にしています。

- 1) CUE の登録画面から、編集したい CUE を選択して [ENTER] キーを押します。
- 2) [MENU] ダイアルで “ Position ” を選択して [ENTER] キーを押します。
登録済み時刻 “ ***ms ” の “ *** ” が点滅します。
- 3) 点滅している桁で、[MENU] ダイアルを使って数値を入力すると、桁が繰り上がっていきます。
編集する桁は [REWIND] キーまたは [F FWD] キーで移動できます。
- 4) 編集後 [ENTER] キーを押して、入力したタイム・データを確定します。
- 5) [MENU] ダイアルで “ <ENTER> ” を選択した後、[ENTER] キーを押して再登録します。
- 6) 登録後 [STOP] キーを押すか、[MENU] ダイアルで画面上にある “ << Back ” を選択して [ENTER] キーを押します。
登録画面から抜け出し、“ 2MIX ファイルの再生モード ” の Home 画面に変わります。

“ 2MIX ファイルの再生モード ” から抜け出すには、前述 7 ページ記載の < 覚えておきましょう! > を参照して、希望のソングを選択してください。

登録済み CUE の削除

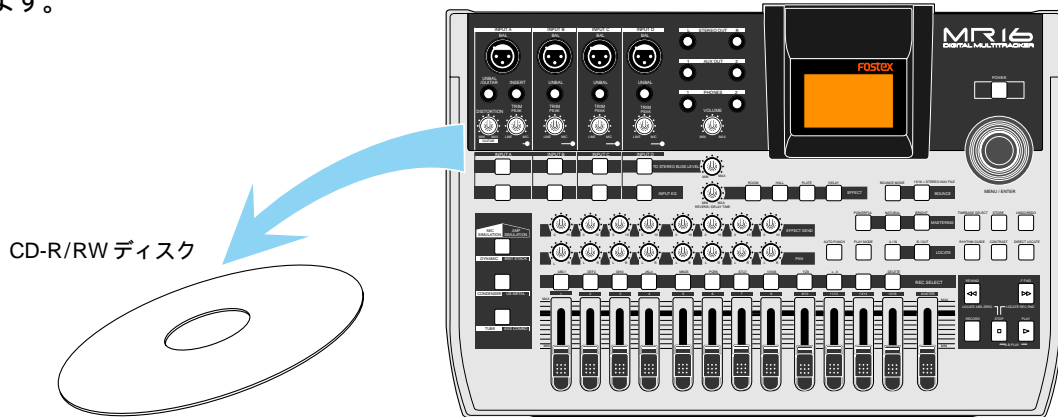
同じ要領で、登録済みの CUE を削除します。下記操作は、前述と同様 CUE の登録画面が表示されていることを前提にしています。

- 1) CUE の登録画面から、削除したい CUE を選択して [ENTER] キーを押します。
- 2) [MENU] ダイアルで “ <DELETE> ” を選択して [ENTER] キーを押します。
選択した CUE が削除された、登録画面に変わります。
- 3) 削除後 [STOP] キーを押すか、画面上にある “ << Back ” を選択して [ENTER] キーを押します。
登録画面から抜け出し、“ 2MIX ファイルの再生モード ” の Home 画面に変わります。

“ 2MIX ファイルの再生モード ” から抜け出すには、前述 7 ページ記載の < 覚えておきましょう! > を参照して、希望のソングを選択してください。

内蔵 CD-R/RW ドライブによるオーディオ CD の作成

本機内蔵のCD-R/RW ドライブを使い、“2MIX フォルダー”内に格納されているステレオWAV ファイルをCD-R/RW ディスクへ記録して、CD-DA フォーマットのオーディオ CD を作成します。記録したCD-R/RW ディスクは、“ファイナライズ”することで他のCD プレーヤーなどで再生可能になります。



*CD-DA: Compact Disc Digital Audio の略で、一般的にオーディオ用として流通しているCDの正式名称です。CDの音声記録用アプリケーション規格で、フォーマットは規格書“Red Book”で規定されています。オーディオ信号はPCM 符号化されたステレオ・デジタル信号で、サンプリング周波数は44.1kHz、量子化ビット数は16ビットで記録されます。

< 内蔵 CD-R/RW ドライブの取り扱い方法 >

内蔵 CD-R/RW ドライブは、下記事項を参照して正しく操作してください。

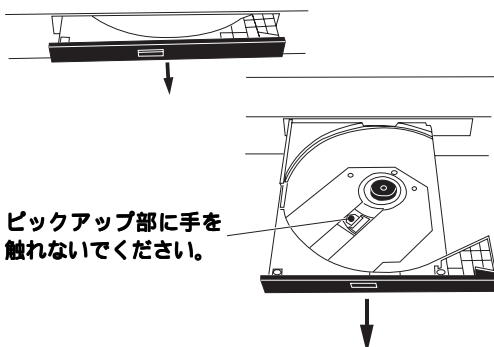
(1) トレイのオープン

本機の電源が入っている状態で、トレイ前面のイジェクト・スイッチを押します。



イジェクト・スイッチ

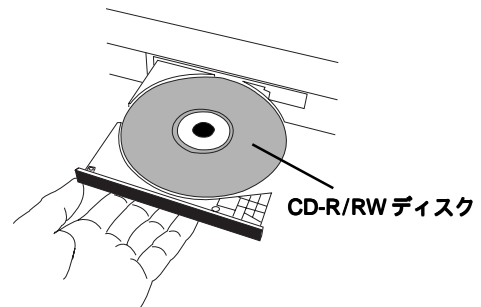
イジェクト・スイッチを押すと、トレイ部が前面に出てきます。その後手で矢印方向へそっと引き出してください。



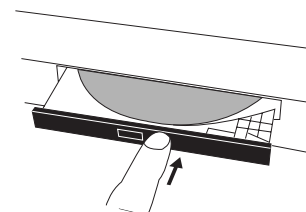
ピックアップ部に手を触れないでください。

(2) ディスクのセットとトレイのクローズ

トレイ下を手で支えながら、ディスクをセットします。



ディスクをセットした後、手で軽くトレイを押し込んでクローズします。



「カチッ」とロックされるまで押し込みます。アクセスLEDが消灯してから本機を操作します。

“Track at once” と “Disk at once” について

CD-DAのオーディオCDを作成する場合、作成の過程で Burning mode (バーニング・モード) を用途に応じて選択します。バーニング・モードには、下記2つのモードがあります。

“Track at once” モード

ステレオWAVファイルの記録終了後、ディスクをファイナライズするまで「追記」が可能なモードです。一曲記録するごとに TOC が作成され、複数の曲を記録して作成したオーディオCDは、各曲間に約2秒の無音（ミュート）が自動的に記録されます。

“Disk at once” モード

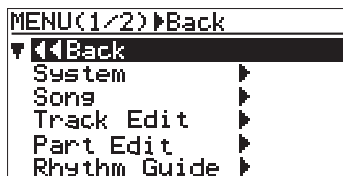
1つのステレオWAVファイルを記録終了後、自動的にディスクをファイナライズするモードで、「追記」はできません。なお、前述の“2MIX ファイルの再生モード”で、あらかじめステレオWAVファイルにCUEリストが登録されていると、CUEリストを基にTOCが作成されて隙間のないトラック分割が行われてオーディオCDが作成されます（注意：CUEリストのないままオーディオCDを作成した場合は、トラックは分割されません）。

下記操作は、“2MIX フォルダー” にステレオWAVファイルが格納されているソングが、あらかじめ立ち上がっていることを前提にしています。

- 1) CD-R/RW ドライブに、未記録のCD-R/RW ディスクをセットします。

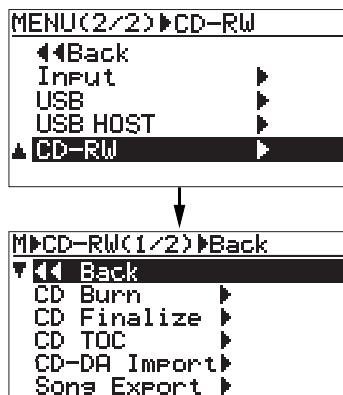
- 2) 停止状態で [ENTER] キーを押して、MENU モードへ入ります。

MENU 選択の1ページ目の画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイヤルで選択画面の2ページ目にある“CD-RW ▶”を選択して、[ENTER] キーを押します。

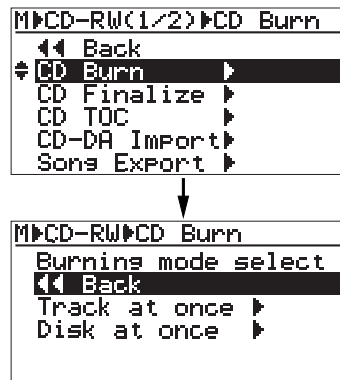
CD-RW メニューの選択画面に変わります。



- 4) [MENU] ダイヤルで“CD Burn ▶”を選択して、[ENTER] キーを押します。

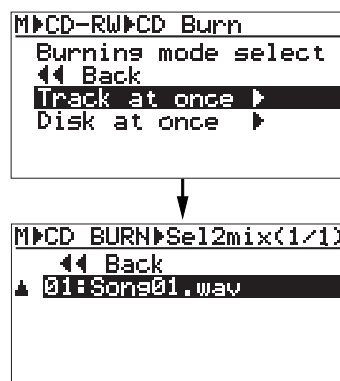
バーニング・モードを選択する画面に変わります。

用途に応じて“Track at once”または“Disk at once”を選択します。



- 5) [MENU] ダイヤルで希望のバーニング・モードを選択して、[ENTER] キーを押します。

現在立ち上がっているソングの“2MIX フォルダー”内にある「ステレオWAVファイル」を選択する画面に変わります。下記例は、1つのステレオWAVファイルが格納されていることを示しています。



<注意>：“2MIXフォルダー”内に、複数のステレオWAVファイルが格納されている場合は、下記例のようにファイル・リストが表示され、[MENU]ダイヤルで任意に選択して“CD Burn”が実行できます（表示されるファイル・リストは、最大10個までです）。

```

M▶CD BURN▶Sel2mix(1/2)
◀ Back
01: Song01.wav
02: Song02.wav
03: Song03.wav
04: Song04.wav
05: Song05.wav

```

6) [MENU]ダイヤルで希望のWAVファイルを選択して、[ENTER]キーを押します。

CD-R/RWディスクへの書き込みが始まり、選択したバーニング・モードによって、それぞれつぎのような画面に変わります。

ディスクへの書き込み中は“Writing...”が点灯し、HDDのアクセスを示す“ACC”が点滅します。また、CD-R/RWドライブのACCESS LEDも点滅しますので、絶対に電源を切ったり、ドライブのイジェクト・キーなどは押さないでください。

なお、データの書き込み中は、本機の操作キーは一切受け付けません。

```

M▶CD-RW▶CD Burn
-- CD BURN TRACK --
Writing...
0 50 100%

```

< Track at once での書き込み中 >

```

M▶CD-RW▶CD Burn
-- CD BURN DISK --
Writing...
0 50 100%

```

< Disk at once での書き込み中 >

<注意>：選択したステレオWAVファイルの容量が、現在セットされているCD-R/RWディスクの記録可能な容量より大きい場合は、下記ポップアップ表示が点灯して、書き込みできません（[ENTER]キーを押すと表示は消えます）。容量の大きいディスクと交換してから、再度同じ操作を行ってください。

```

Not Enough Remain
Press ENTER Key

```

ディスクへの書き込みが全て終了すると、それぞれ下記画面に変わり“Completed!”が点灯してアクセスも停止します。

```

M▶CD-RW▶CD Burn
-- CD BURN TRACK --
Completed!
0 50 100%
Press ENTER Key!

```

< Track at once での記録終了時 >

```

M▶CD-RW▶CD Burn
-- CD BURN DISK --
Completed!
0 50 100%
Press ENTER Key!

```

< Disk at once での記録終了時 >

7) 表示に従って、[ENTER]キーを押します。

CD-RWメニューを選択する画面に戻り、“CD Burn▶”が反転します。

```

M▶CD-RW(1/2)▶CD Burn
◀ Back
▶ CD Burn
CD Finalize ▶
CD TOC ▶
CD-DA Import▶
Song Export ▶

```

“Disk at once”で記録した場合は、記録終了後自動的にファイナライズ処理され、ディスクがイジェクトされます。必要に応じて、14ページ記載の「ファイナライズ処理後のTOC情報を確認」で、TOC情報を確認してください。

“Track at once”で記録した場合は、つぎの操作-8でファイナライズが必要です。ただし、複数のステレオWAVファイルを引き続き記録する場合には、上記画面の状態から操作-4～6を繰り返し、全ての記録終了後にファイナライズを実行してください。なお、“Track at once”で記録したときは、ファイナライズする前でも後でも、TOC情報が確認できます。

特に、複数のステレオWAVファイルを記録する場合は、TOC情報でディスクの記録可能な容量（リメイン）を確認しながら作業することをお勧めします（13ページの「ファイナライズ処理前のTOC情報を確認」を参照してください）。

8) [MENU]ダイヤルで“CD Finalize▶”を選択して、[ENTER]キーを押します。

ファイナライズを実行するかどうかを選択する画面に変わり、“[CANCEL]”が反転します。ファイナライズを実行するには“[EXECUTE]”を選択し、中止するときは“[CANCEL]”を選択します。

```

MPCD-RW(1/2)MPCD Finali
<< Back
CD Burn ▶
* CD Finalize ▶
CD TOC ▶
CD-DA Import▶
Song Export ▶

```

```

MPCD-RWFinalize
-- CD FINALIZE --
If you finalized the
disk, you cannot reco
rd more.
Are you sure?
[EXECUTE] [CANCEL]

```

9) [MENU] ダイアルで “[EXECUTE]” を選択して、[ENTER] キーを押します。

ファイナライズの実行画面に変わります。
ファイナライズが終了すると “Completed!” が点灯して、CD-R/RW ドライブから自動的にディスクがイジェクトされます。

```

MPCD-RWFinalize
-- CD FINALIZE --
If you finalized the
disk, you cannot reco
rd more.
Are you sure?
[EXECUTE] [CANCEL]

```

```

MPCD-RWFinalize
-- CD FINALIZE --
Please wait
Finalizing...

```

```

MPCD-RWFinalize
-- CD FINALIZE --
Completed!
Press ENTER Key!

```

< 注意 > : “Track at once” で記録したディスクをファイナライズすると、追記録できなくなります。イジェクトされたディスクをドライブに再ロードして追記しようとする、 “Already Finalized” のポップアップ表示が点灯して、記録することができません。

10) [ENTER] キーを押します。

CD-RW のメニュー選択画面に変わり、“CD Finalize ▶” が反転します。

```

MPCD-RW(1/2)MPCD Finali
<< Back
CD Burn ▶
* CD Finalize ▶
CD TOC ▶
CD-DA Import▶
Song Export ▶

```

ファイナライズ終了後TOC情報を確認するには、14 ページ記載の「ファイナライズ処理後の TOC 情報を確認」を参照してください。

11) [STOP] キーを押して、MENUモードから抜け出します。

画面上にある “<< Back” を選択して [ENTER] キーを押す操作を繰り返すことでも、MENUモードから抜け出すことができます。

“Track at once” または “Disk at once” で作成したオーディオCDは、下記図のようにCD-R/RWディスクに記録されます。

1つのステレオWAVファイルを “Track at once” で作成した場合：

トラック1 

“Track at once” で4つのステレオWAVファイルを追記して作成した場合：

トラック間に2秒の無音が作成されて分割されます。

トラック1 

トラック2 

トラック3 

トラック4 

 : 約2秒間の無音 (ミュート)

CUE01 (C01)のみが登録されているステレオWAVファイルを、“Disk at once” で作成した場合：

トラック1 

CUE01 (C01)以外に3つのCUEを登録したステレオWAVファイルを、“Disk at once” で作成した場合：

トラック間に無音が無く分割されます。

トラック1 

トラック2 

トラック3 

トラック4 

TOC 情報の確認

TOC 情報は、記録したディスクのファイナライズ処理前でも、ファイナライズ処理後でも確認することができます（“**Disk at once**” で記録したディスクはファイナライズ処理後のみ確認が可能）。特に、“**Track at once**” で複数のステレオ WAV ファイルを追記するときは、CD-R/RW ディスクの記録可能な容量（リメイン）を確認しながら作業することをお勧めします。

***TOC** : Table of contents の略で、音楽 CD のトラック（曲）数や、演奏時間などを管理するデータ領域を意味しています。

ファイナライズ処理前の TOC 情報を確認（“Track at once” で記録したディスクのみ）

下記操作は、前述の「オーディオ CD の作成」において、“**Track at once**” で記録したファイナライズ処理前の状態で、ディスプレイには“**CD Burn ▶**” が反転していることを前提にしています。

- 1) “**CD Burn ▶**” が反転している状態から、**[MENU]** ダイアルで“**CD TOC ▶**”を選択して **[ENTER]** キーを押します。

“Please wait...” を表示した後、記録した曲の記録時間とリメインを表示する画面に変わります。



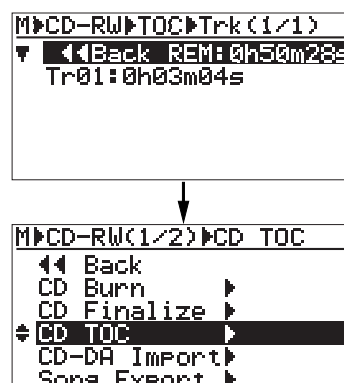
< 注意 > : “**Track at once**” で複数のステレオ WAV ファイルを連続して記録したディスクでは、下記例のように TOC 情報が表示され、リメインも確認できます。

```

M>CD-RW>TOC>Trk(1/1)
▼ ◀Back REM:0h50m28s
Tr01:0h03m04s
Tr02:0h03m16s
Tr03:0h02m36s
Tr04:0h05m38s
  
```

- 2) TOC 情報を確認したら、**[MENU]** ダイアルでカーソルを“◀Back”に移動して、**[ENTER]** キーを押します。

“**CD TOC ▶**” が反転する画面に変わります。



TOC 情報の確認後“**Track at once**” モードで追記するには、“**CD Burn ▶**”を選択して **[ENTER]** キーを押した後、前述と同様他のステレオ WAV ファイルを選択して記録を続けます（前述 11 ページを参照してください）。

また、TOC 情報の確認後ディスクをファイナライズするには、“**CD Finalize ▶**”を選択して **[ENTER]** キーを押してください（前述 11 ページを参照してください）。

ファイナライズ処理後の TOC 情報を確認

下記操作は、前述の「オーディオ CD の作成」において、“Disk at once” で記録後自動的にファイナライズされたディスク、または“Track at once” で記録後ファイナライズしたディスクが CD-R/RW ドライブからイジェクトされている状態で、ディスプレイは“CD Finalize ▶” が反転していることを前提にしています。

1) イジェクトされている CD-R/RW ドライブのトレイを、クローズします。

ドライブのトレイ前面を、手で軽く押し込んでください。ディスクをロードして、ディスプレイは“CD Finalize ▶” が反転しています。

```

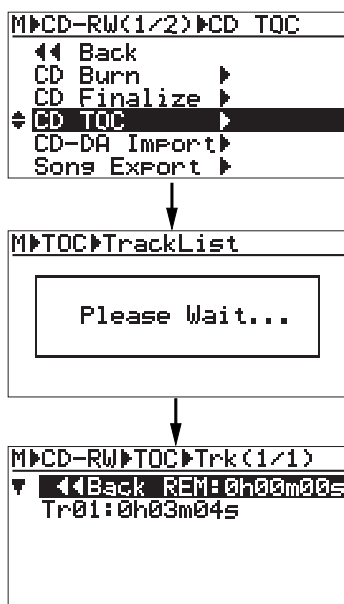
M▶CD-RW(1/2)▶CD Finali
◀◀ Back
CD Burn ▶
◀◀ CD Finalize ▶
CD TOC ▶
CD-DA Import▶
Song Export ▶
  
```

<注意>：トレイをクローズすると、ドライブがディスク情報を読み込むため、アクセス LED が点滅します。そのため、ドライブのアクセスが完全に停止して、アクセス LED が消灯していることを確認してから操作してください。

2) [MENU] ダイアルで“CD TOC ▶”を選択して、[ENTER] キーを押します。

“Please wait...” が点灯した後、前述の「ファイナライズ処理前の TOC 情報を確認」と同様、現在記録されているトラックの TOC 情報を表示します。

ファイナライズ処理した後の TOC 情報では、リメインの値が“0h00m00s”を表示します。これは、ファイナライズ処理した後のディスクには、これ以上追記録できないことを示しています。



<注意>：“Track at once” で複数のステレオ WAV ファイルを連続して記録したディスクや、“Disk at once” で CUE リストを基に TOC を作成したディスクでは、下記例のように TOC 情報が表示されます(もちろんリメインは“0h00m00s”になります)。

```

M▶CD-RW▶TOC▶Trk(1/1)
◀◀ Back REM:0h00m00s
Tr01:0h03m04s
Tr02:0h03m16s
Tr03:0h02m36s
Tr04:0h05m38s
  
```

3) TOC 情報を確認したら、[STOP] キーを押して MENU モードから抜け出します。

Home 画面に変わります。

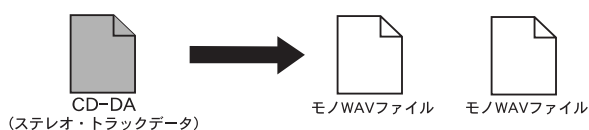
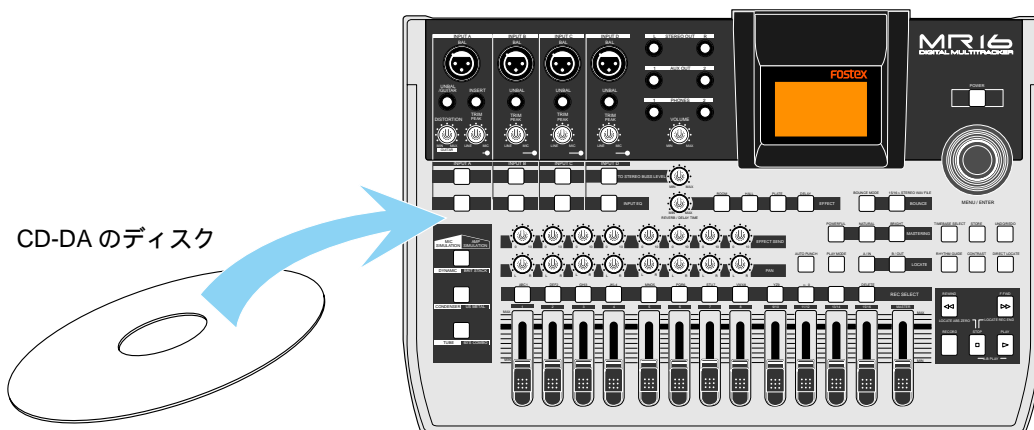
<覚えておきましょう！>：本機で作成したオーディオ CD 以外に、市販のオーディオ CD も TOC が確認できます(注意：一部 TOC が表示されない市販ディスクもあります)。

CD-R/RW ドライブに市販のディスクをロードして、MENU モードの“CD-RW”メニューを使って、前述同様の操作を行ってください。なお、本機で確認できる市販ディスクの TOC 情報は、トラック数と記録時間のみで、トラックのタイトルなどは表示しません。

CD-DA ディスクのトラック・データをインポート(コピー)

CD-DA のオーディオ CD (市販のオーディオ CD も含む) のトラック・データを、現在立ち上がっているソングの奇数・偶数連続したステレオ・トラック (1/2、3/4、5/6、7/8、9/10、11/12、13/14 または 15/16) に、モノ WAV ファイルに変換してインポート(コピー)します。下記操作は、本機内蔵の CD-R/RW ドライブに CD-DA ディスクがセットされ、本機にはインポート先に選択したソングが立ち上がっていることを前提にしています。

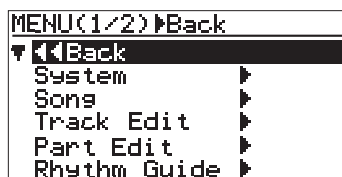
< 注意 > : CD-DA ディスクのトラック・データをインポートできるのは、本機に内蔵されている CD-R/RW ドライブのみで、後述の [USB HOST] ポートに接続する外部 CD-R/RW ドライブでは、行うことができません。



モノ WAV ファイルに変換されたトラック・データは、L チャンネルが奇数トラック、R チャンネルが偶数トラックへインポート(コピー)されます。

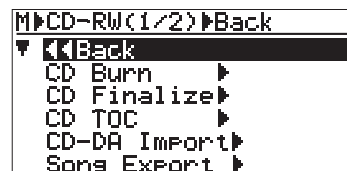
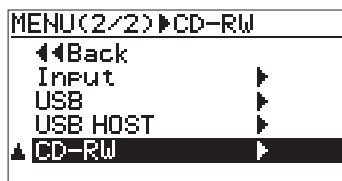
- 1) 停止状態で [ENTER] キーを押して、MENU モードへ入ります。

MENU 選択の 1 ページ目の画面に変わります。



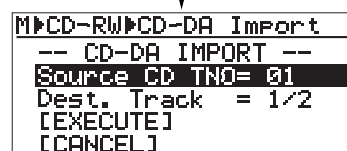
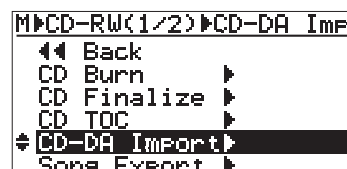
- 2) [MENU] ダイヤルで MENU 選択の 2 ページ目にある“CD-RW ▶”を選択して、[ENTER] キーを押します。

CD-RW メニューの選択画面に変わります。



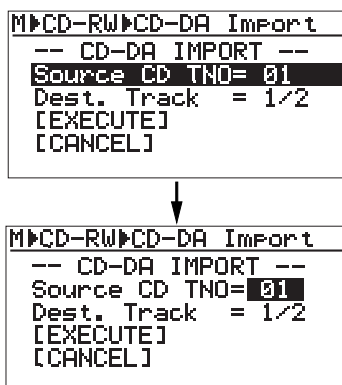
- 3) [MENU] ダイヤルで“CD-DA Import ▶”を選択して、[ENTER] キーを押します。

インポート元のトラック・ナンバーや、インポート先ソングのトラックを選択する画面に変わります。



- 4) “Source CD TNO=**” が反転している状態で、[ENTER] キーを押します。

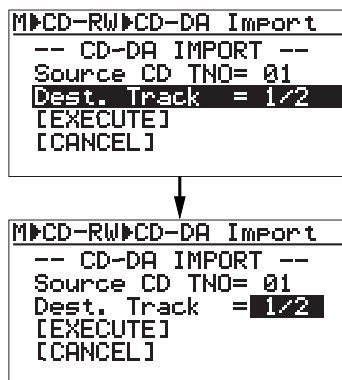
CD-DA ディスクのトラック・ナンバーが選択可能になり、現在 CD-DA ディスクに記録されているトラック・ナンバーから任意に選択できます。



- 5) [MENU] ダイアルで希望のトラック・ナンバーを選択して、[ENTER] キーを押します。
“Source CD TNO=**” が反転する画面に変わります。

- 6) [MENU] ダイアルで “Dest. Track=*/*” を選択して、[ENTER] キーを押します。
現在立ち上がっているインポート先ソングの、トラックが選択可能になります。

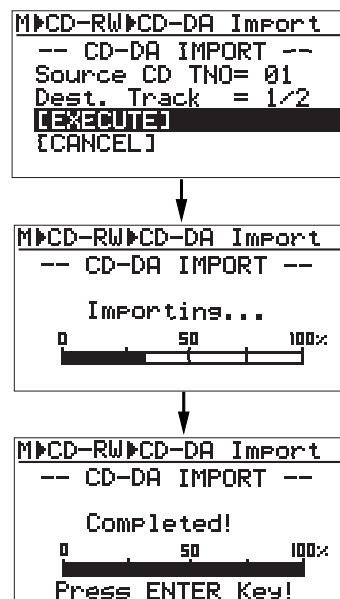
インポート先のトラックは、“1/2”、“3/4”、“5/6”、“7/8”、“9/10”、“11/12”、“13/14”、または“15/16”の、奇数・偶数隣り合わせのステレオ・トラックが選択できます。



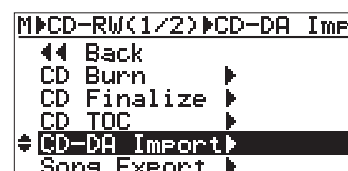
- 7) [MENU] ダイアルでインポート先のトラックを選択して、[ENTER] キーを押します。
“Dest. Track=*/*” が反転する画面に変わります。

- 8) [MENU] ダイアルで “[EXECUTE]” を選択して、[ENTER] キーを押します。
CD-DA ディスクからトラック・データのインポートを開始し、終了と同時に “Completed” が点灯します。

< 注意 > : インポートは、トラックの先頭 (ABS 0) から行われます。



- 9) [ENTER] キーを押します。
“CD-DA Import” が反転する画面に変わります。



- 10) [STOP] キーを押して、MENUモードから抜け出します。

[MENU] ダイアルで画面上の “◀ Back” を選択して [ENTER] キーを押すと、一つ前の画面に戻りますので、同様の操作を繰り返すことでMENUモードから抜け出すことができます。

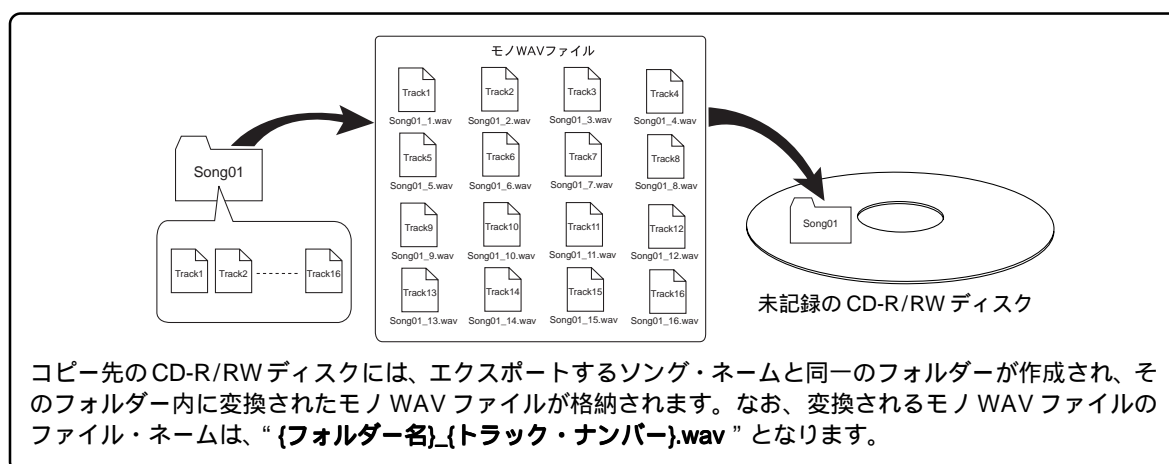
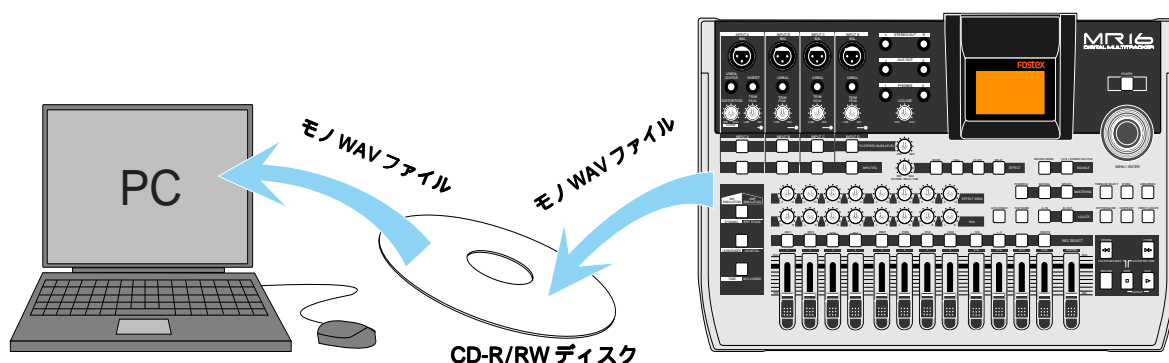
< 注意 > : 思っているインポートの結果でなかった場合には、速やかに [UNDO/REDO] キーを押して、アンドウしてください。アンドウすることで、インポートする前の状態に戻すことができます。
ただし、アンドウする前にディスクをイジェクトしたり、他のソングに切り換えたり、電源をオフすると、アンドウできなくなりますのでご注意ください。

モノ WAV ファイルに変換してエクスポート(コピー)

現在立ち上がっているソング・データ(トラック1～16)を、1モノ・トラック形式のWAVファイルに変換して、CD-R/RWディスクへエクスポート(コピー)します。CD-R/RWディスクへコピーしたモノWAVファイルは、PCマルチレコーディングのアプリケーション・ソフトにインポートしたり、ソング・データのバックアップに利用できます。これらの機能は、本機[USB]ポートにPCを接続して、フォステクスが供給しているWAV Manager(ワブ・マネージャー)を使用しても可能です(詳細は取扱説明書・本文107ページを参照してください)。

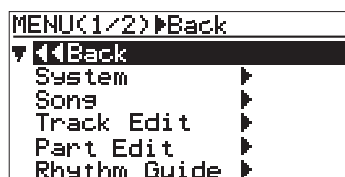
下記操作は、内蔵CD-R/RWドライブに未記録のCD-R/RWディスクがセットされ、本機にはエクスポートするソングが立ち上がっていることを前提にしています。

<注意>：モノWAVファイルに変換してCD-R/RWディスクへコピーできるのは、本機に内蔵されているCD-R/RWドライブのみで、後述の[USB HOST]ポートに接続する外部CD-R/RWドライブでは行えません。

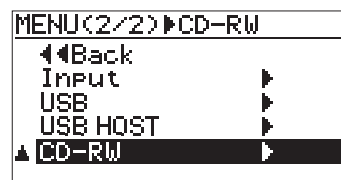


コピー先のCD-R/RWディスクには、エクスポートするソング・ネームと同一のフォルダーが作成され、そのフォルダー内に変換されたモノWAVファイルが格納されます。なお、変換されるモノWAVファイルのファイル・ネームは、「{フォルダー名}_{トラック・ナンバー}.wav」となります。

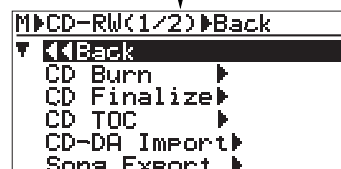
- 1) 停止状態で[ENTER]キーを押して、MENUモードへ入ります。
MENU選択の1ページ目の画面に変わります。



CD-RWメニューの選択画面に変わります。



- 2) [MENU]ダイヤルでMENU選択の2ページ目にある“CD-RW▶”を選択して、[ENTER]キーを押します。



- 3) [MENU] ダイアルで“ Song Export ▶ ”を選択して、[ENTER] キーを押します。

エクスポートの開始 / 終了時間と、トラックを設定する画面になります (“ [EXECUTE] ” が反転)。

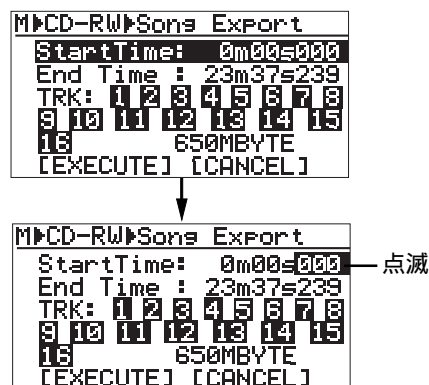


初期設定では、エクスポートの開始 / 終了時間、およびトラックの ON/OFF は、以下の設定になっています。

開始時間：ソングの先頭 (ABS 0)
終了時間：ソングの最終記録位置
トラックの ON/OFF：全トラック (1 ~ 16) ON

上記、初期設定のままエクスポートするときは < 操作 -10 > へ進み、開始時間 / 終了時間 / トラックの ON/OFF を任意に設定するときは、< 操作 -4 > ~ < 操作 -9 > を実行してください。

- 4) [MENU] ダイアルで“ StartTime: 0m00s000 ”を選択して、[ENTER] キーを押します。
エクスポートの開始時間が編集可能になります。



< 時間の設定方法 >

エクスポートの開始時間、および終了時間は、下記操作を参照して任意に設定が可能です。

[MENU] ダイアルでの入力：

入力する桁は [REWIND] キー（または [F FWD] キー）で移動し、[MENU] ダイアルで数値を入力します。

文字入力キーでの入力：

点滅しているmsの1桁目から入力でき、入力するごとに左へシフトしていきます。桁の移動は [REWIND] キー（または [F FWD] キー）でも行なえます。

- 5) 開始時間の編集後、[ENTER] キーを押します。
“ StartTime: *m*s*** ” の反転画面になります。

- 6) [MENU] ダイアルで“ End Time ”を選択して、[ENTER] キーを押します。
エクスポートの終了時間が編集可能になります。



- 7) 終了時間の編集後、[ENTER] キーを押します。
“ End Time: *m*s*** ” の反転画面になります。

- 8) [MENU] ダイアルで“ TRK ”を選択して、[ENTER] キーを押します。
エクスポート・トラックの ON/OFF が可能になり、トラック“ 1 ”のみが点滅します。



< 注意 >：何も記録されていないトラックは OFF（反転無し）になっています。

< トラック ON/OFF の設定方法 >

点滅している状態で [MENU] ダイアルを左へ回すと OFF（反転無し）になり、右へ回すと ON（反転）になります。選定するトラック（点滅）は、[F FWD] キー（または [REWIND] キー）で移動します。

- 9) エクスポートしたいトラックの ON/OFF を設定後、[ENTER] キーを押します。
“ TRK ” の反転画面になります。

- 10) [MENU] ダイアルで画面下の“ [EXECUTE] ”を選択して、[ENTER] キーを押します。
CD-R/RW ディスクへのエクスポートを開始し、ファイナライズ処理後“ Completed ”が点灯して、自動的にディスクをイジェクトします。
エクスポートしないときは“ [CANCEL] ”を選択してください。



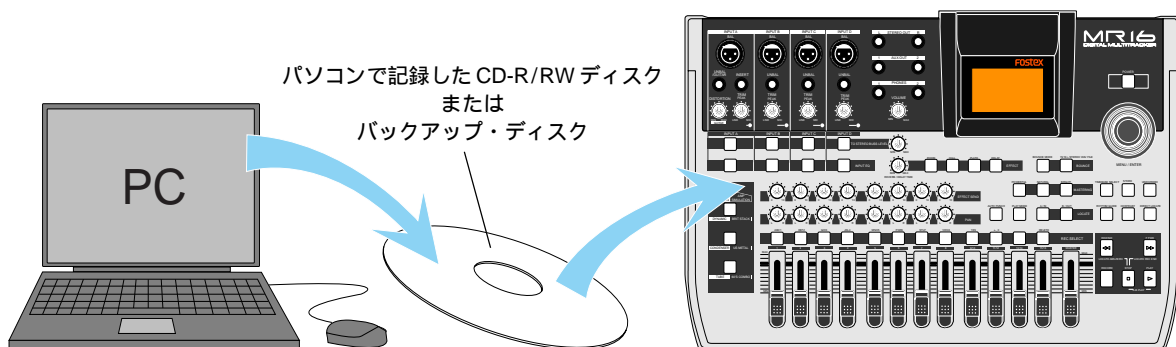
- 11) 画面に従って、[ENTER] キーを押します。
“ Song Export ▶ ” の反転画面に変わります。
- 12) [STOP] キーを押して、MENUモードから抜け出します。

[MENU] ダイアルで画面上の“ ◀◀Back ”を選択して [ENTER] キーを押すと、一つ前の画面に戻りますので、同様の操作を繰り返すことでMENUモードから抜け出すことができます。

モノ WAV ファイルをインポート (コピー)

パソコン上で編集したトラック・データのモノ WAV ファイルやバックアップ・データを、本機のHDDヘインポート (コピー) します。下記操作は、内蔵CD-R/RWドライブにモノ WAV ファイルが記録されたCD-R/RWディスクがセットされ、本機は“ New Song ”が立ち上がっていることを前提にしています (“ New Song ”の作成については取扱説明書・本文の33ページを参照してください)。

<注意>：モノ WAV ファイルをインポートできるのは、本機に内蔵されているCD-R/RWドライブのみで、後述の [USB HOST] ポートに接続する外部CD-R/RWドライブでは行えません。



<注意>：パソコン側で編集したトラック・データのモノ WAV ファイルを、CD-R/RWディスクへコピーしてMR16ヘインポートする場合、ファイル・ネームは以下のように設定してください。

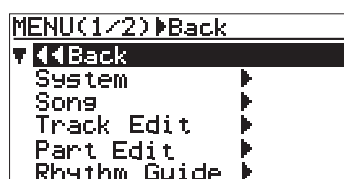
“ {ソング名}_{トラック・ナンバー} ”
(例：“ My Song_1 ”、“ My Song_2 ”・・・ “ My Song_8 ”)

ファイル・ネームを上記のように設定しておくと、“ My Song_1 ”はトラック1へ、“ My Song_2 ”はトラック2へというように、インポート先ソングのトラックへ自動的にコピーされます。なお、前述の「モノ WAV ファイルのエクスポート」で作成したバックアップ・ディスクのデータをインポートする際は、エクスポートする前と同じトラックへコピーされます。

<注意>：既存の記録済みソングへインポートしたときは、既存のトラック・データはインポートされるトラック・データに書き換えられてしまいます。ただし、既存のトラック・データよりインポートされるデータの時間が短い場合は、インポートされる時間のみ書き換えられ、それ以外は既存のデータが残ってしまいます。なお、思うようなインポートの結果でなかった場合には、速やかに **[UNDO/REDO]** キーを押して、アンドウしてください。アンドウすることで、インポートする前の状態に戻すことができます。

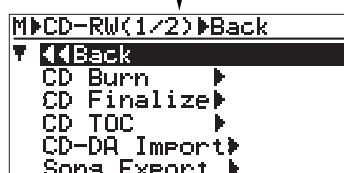
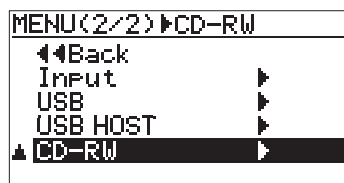
1) 停止状態で **[ENTER]** キーを押して、MENU モードへ入ります。

MENU 選択の 1 ページ目の画面に変わります。



2) [MENU] ダイアルで MENU 選択の 2 ページ目にある“CD-RW”を選択して、**[ENTER]** キーを押します。

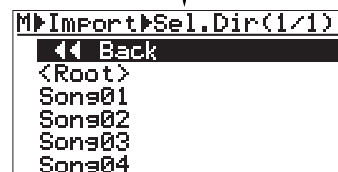
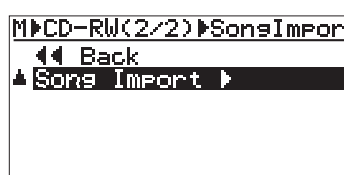
CD-RW メニューの選択画面に変わります。



3) [MENU] ダイアルで 2 ページ目にある“Song Import”を選択して、**[ENTER]** キーを押します。

CD-R / RW ディスクに記録されている、フォルダーの選択画面に変わります。

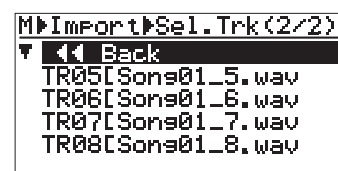
インポート可能なフォルダーは、<Root> およびその 1 つ下のサブ・ディレクトリまでです。下記例は、<Root> の一つ下に 4 つのフォルダーがあることを示しています（表示可能なフォルダーは最大 10 個まで可能です）。



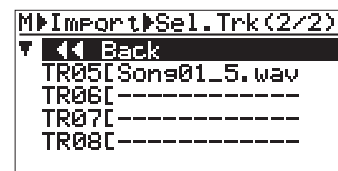
4) [MENU] ダイアルでインポートするフォルダーを選択して、**[ENTER]** キーを押します。トラック情報の画面に変わり、各トラック毎にインポートされるファイル名が表示されます。



<注意>：全トラック（1～16）のファイルが存在する場合は、複数ページで表示されます。



ただし、インポートするフォルダー内に該当するファイルが存在しない場合は、下記例のようにトラック・ナンバー後のファイル名は“-----”を表示します。



このような例では、インポートするフォルダーにはトラック 1～5 の WAV ファイルしか存在しないか、あるいはトラック 6～8 の WAV ファイルは存在するのに、ファイル名が異なっていることを示しています。つまり、トラック 6～8 のファイル名が“{ソング名}_{トラック・ナンバー}”に設定されていないことになります。上記例のようにトラック 6～8 にファイルを設定してからインポートするには、次ページを参照してください。また、このままインポートする場合は次の「操作 -5」を実行します。

5) [MENU] ダイアルで“[EXECUTE]”を選択して、**[ENTER]** キーを押します。

インポートの確認を促す画面に変わり、“[NO]”が反転します。

```

M▶Import▶Sel.Trk(1/2)
◀ Back
[EXECUTE]
TR01[Songs01_1.wav
TR02[Songs01_2.wav
TR03[Songs01_3.wav
TR04[Songs01_4.wav

```

```

M▶CD-RW▶Song Import
-- SONG IMPORT --

Start Importing
Are you sure?

[YES] [NO]

```

インポートを実行するには“[YES]”を選択し、インポートを中止するときは“[NO]”を選択します。

- 6) [MENU] ダイアルで“[YES]”を選択して、[ENTER] キーを押します。

インポートが開始され、終了すると同時に“Completed”が点灯し、アクセスも停止します。

```

M▶CD-RW▶Song Import
-- SONG IMPORT --

Start Importing
Are you sure?

[YES] [NO]

```

```

M▶CD-RW▶Song Import
-- SONG IMPORT --

Importing...

0 50 100%

```

```

M▶CD-RW▶Song Import
-- SONG IMPORT --

Completed!

0 50 100%
Press ENTER Key!

```

- 7) 画面表示に従って [ENTER] キーを押します。
“Song Import▶”が反転する画面に変わります。
- 8) [STOP] キーを押して、MENUモードから抜け出します。
[MENU] ダイアルで画面上的“◀ Back”を選択して [ENTER] キーを押すと、一つ前の画面に戻りますので、同様の操作を繰り返すことでMENUモードから抜け出すことができます。

<覚えておきましょう>

前述20ページの<注意>に記載したように、フォルダー内にはインポートするファイルが存在するのに、ファイル名が異なっていて自動的にインポートするファイルが設定されていない場合、右記手順でファイルを設定することができます。

手動でファイルを選択するには

例として、下記画面の“TR06”にインポートするファイルを設定します。“TR07”、“TR08”に設定する場合も、同じ要領で行ってください。

```

M▶Import▶Sel.Trk(2/2)
◀ Back
TR05[Songs01_5.wav
TR06[-----
TR07[-----
TR08[-----

```

- 1) [MENU] ダイアルで“TR06”を選択して、[ENTER] キーを押します。

インポートするファイルを選択する画面に変わり、“◀ Back”後の“TR06”が、選択したトラックを示しています。

```

M▶Import▶Sel.Trk(2/2)
◀ Back
TR05[Songs01_5.wav
▶ TR06[-----
TR07[-----
TR08[-----

```

```

M▶Import▶Sel.File(1/2)
◀ Back TR06
[DELETE]
01:Songs01_1.wav
02:Songs01_2.wav
03:Songs01_3.wav
04:Songs01_4.wav

```

2 ページ目の画面には、下記例のようにトラック・ナンバーが付加されていないファイルが表示されます。

```

M▶Import▶Sel.File(2/2)
◀ Back TR06
05:Songs01_5.wav
06:Songs02.wav
07:Songs03.wav
08:Songs04.wav

```

- 2) [MENU] ダイアルで希望のファイルを選択して、[ENTER] キーを押します。

選択したファイルが“TR06”に設定され、下記画面に変わります(例として“06: Song02.wav”を選択します)。

```

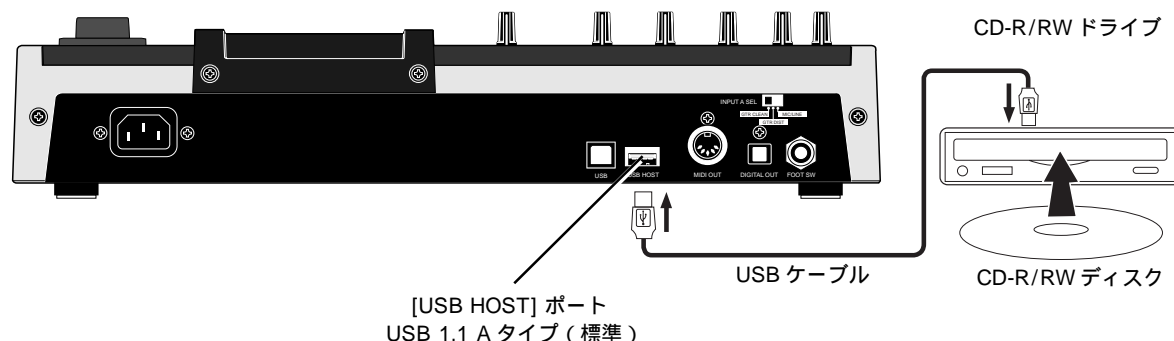
M▶Import▶Sel.Trk(2/2)
◀ Back
TR05[Songs01_5.wav
▶ TR06[Songs02.wav
TR07[-----
TR08[-----

```

<覚えておきましょう>: 上記の方法を利用すると、既に設定されているWAVファイルを入れ替えることが可能です。また、TR01 ~ TR05のように、既に設定されているWAV ファイルを削除したい場合は、希望のトラックを選択して [ENTER] キーを押し、上記画面の“[DELETE]”が反転していることを確認して [ENTER] キーを押してください。

外部 CD-R/RW ドライブによるオーディオ CD の作成

外部 CD-R/RW ドライブは、専用の USB ケーブル（本機には付属していません）を使って、下記図の要領で本機リアパネル部にある **[USB HOST] ポート** へ接続します。



接続可能な CD-R/RW ドライブについて（重要です！）

[USB] ポートを装備し、電源が単独で供給できるドライブであれば、本機の [USB HOST] ポートに接続して使用できます。

本機は、“**USB BUS POWER 機能**”（本機から USB ケーブルで電源をドライブ側へ供給する機能）を搭載していません。そのため、本機には“**USB BUS POWER**”タイプの CD-R/RW ドライブを接続することはできません。

なお、ドライブ・メーカーの事情で使用可能な機種が変更になることがあります。お手数でも、最新の使用可能なドライブ情報を当社ホームページ（<http://www.fostex.jp>）でご確認ください。

“Track at once” と “Disk at once” について

CD-DA のオーディオ CD を作成する場合、作成の過程で Burning mode（バーニング・モード）を用途に応じて選択します。バーニング・モードには、下記 2 つのモードがあります。

“Track at once”

ステレオ WAV ファイルの記録終了後、ディスクをファイナライズするまで「追記」が可能なモードです。一曲記録するごとに TOC が作成され、複数の曲を記録して作成したオーディオ CD は、各曲間に約 2 秒の無音（ミュート）が自動的に記録されます。

“Disk at once”

1 つのステレオ WAV ファイルを記録終了後、自動的にディスクをファイナライズするモードで、「追記」はできません。なお、前述の“2MIX ファイルの再生モード”で、あらかじめステレオ WAV ファイルに CUE リストが登録されていると、CUE リストを基に TOC が作成されて隙間のないトラック分割が行われてオーディオ CD が作成されます（注意：CUE リストのないままオーディオ CD を作成した場合は、トラックは分割されません）。

次ページからの操作手順は、あらかじめ下記準備が整っていることを前提にして記載されています。

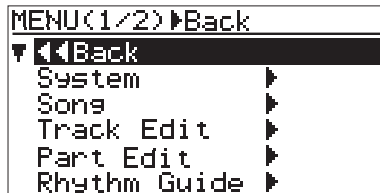
本機と外部 CD-R/RW ドライブが USB ケーブルで正しく接続され、双方の電源がオンになっている。
オーディオ CD を作成するためのステレオ WAV ファイルが格納されているソングが、立ち上がっている。

- 1) 外部CD-R/RWドライブに、未記録のディスクをセットします。

トレイの開閉は、ドライブ側で操作します。

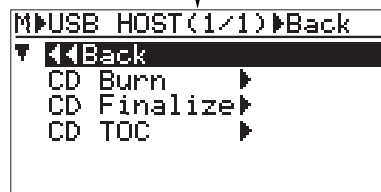
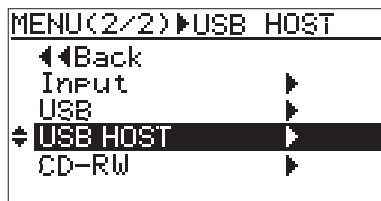
- 2) 停止状態で [ENTER] キーを押して、MENU モードへ入ります。

MENU 選択の 1 ページ目の画面に変わります。



- 3) [MENU] ダイアルで MENU 選択の 2 ページ目にある “USB HOST ▶” を選択して、[ENTER] キーを押します。

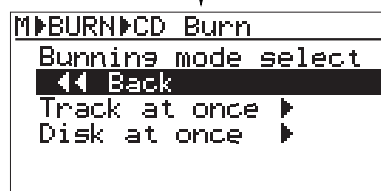
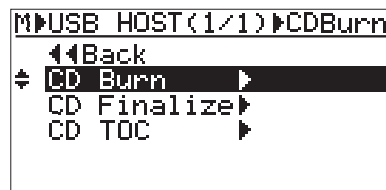
USB HOST メニューの選択画面に変わります。



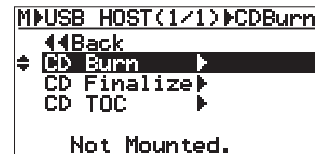
- 4) [MENU] ダイアルで “CD Burn ▶” を選択して、[ENTER] キーを押します。

バーニング・モードの選択画面に変わります。

用途に応じて “Track at once” または “Disk at once” を選択します（前ページを参照）。



< 注意 > : [MENU] ダイアルで USB HOST メニューを選択したとき、画面下に “Not Mounted” が点灯するときは、本機と CD-R/RW ドライブが正しく接続されていないことを示しています。



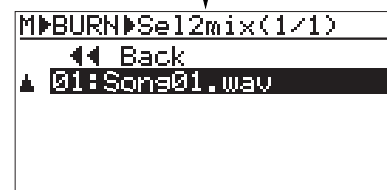
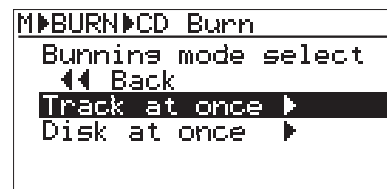
この状態で [ENTER] キーを押すと、下記ポップアップ表示が点灯して警告します。

Warning:
Not Mounted!

このような場合には、本機のHDDおよびCD-R/RWドライブのアクセスが停止している状態で、USB ケーブルを抜き差ししてください。その後、“Not Mounted” が点灯しないことを確認して、[ENTER] キーを押してください。

- 5) [MENU] ダイアルでバーニング・モードを選択して、[ENTER] キーを押します。

現在立ち上がっているソングの “2MIX フォルダ” 内にある “ステレオ WAV ファイル” の選択画面に変わります。下記図例は、フォルダ内に 1 つの WAV ファイルが格納されていることを示しています。



< 注意 > : “2MIX フォルダ” 内に複数のステレオ WAV ファイルが格納されている場合は、下記例のようにファイル・リストが表示されます。[MENU] ダイアルで希望のステレオ WAV ファイルを選択して “CD Burn” が実行できます（ファイル・リストは、最大 10 個まで表示可能です）。

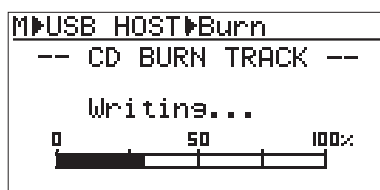


6) [MENU] ダイアルで希望のWAVファイルを選択して、[ENTER] キーを押します。

CD-R/RWディスクへの書き込みが始まり、選択したバーニング・モードによって、それぞれつぎのような画面に変わります。

ディスクへの書き込み中は“Writing...”が点灯し、HDDのアクセスを示す“ACC”が点滅します。また、CD-R/RWドライブのACCESS LEDも点滅しますので、このような状態にあるときは、絶対に電源を切ったり、ドライブのイジェクト・キーを操作しないでください。

なお、データの書き込み中は、本機の操作キーは一切受け付けません。



< Track at once での書き込み中 >



< Disk at once での書き込み中 >

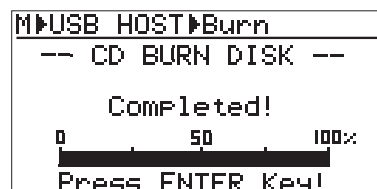
<注意>：選択したステレオWAVファイルの容量が、現在セットされているCD-R/RWディスクの記録可能な容量より大きい場合は、下記ポップアップ表示が点灯して、書き込みできません([ENTER] キーを押すと表示は消えます)。容量の大きいディスクと交換してから、再度同じ操作を行ってください。

Not Enough Remain
Press ENTER Key

ディスクへの書き込みが全て終了すると、それぞれ下記画面に変わり“Completed!”が点灯してアクセスも停止します。



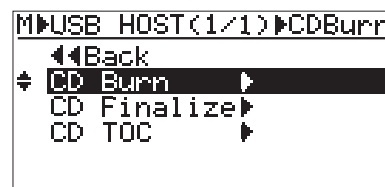
< Track at once での記録終了時 >



< Disk at once での記録終了時 >

7) 表示に従って、[ENTER] キーを押します。

USB HOST メニューを選択する画面に戻り、“CD Burn ▶”が反転します。

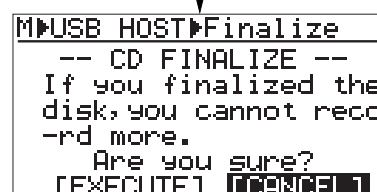
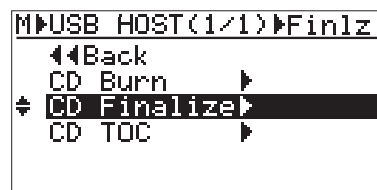


“Disk at once”で記録した場合は、記録終了後自動的にファイナライズ処理され、ディスクがイジェクトされます。必要に応じて、27ページ記載の「ファイナライズ後のTOC情報を確認」で、TOC情報を確認してください。

“Track at once”で記録した場合は、つぎの操作-8でファイナライズが必要です。ただし、複数のステレオWAVファイルを引き続き記録する場合には、上記画面の状態から操作-4～6を繰り返し、全ての記録終了後にファイナライズを実行してください。なお、“Track at once”で記録したときは、ファイナライズする前でも後でも、TOC情報が確認できます。特に、複数のステレオWAVファイルを記録する場合は、TOC情報でディスクの記録可能な容量(リメイン)を確認しながら作業することをお勧めします(26ページの「TOC情報の確認」を参照してください)。

8) [MENU] ダイアルで“CD Finalize ▶”を選択して、[ENTER] キーを押します。

ファイナライズを実行するかどうかを選択する画面になり、“[CANCEL]”が反転します。ファイナライズを実行するには“[EXECUTE]”を選択し、中止するときは“[CANCEL]”を選択します。



- 9) [MENU] ダイアルで “[EXECUTE]” を選択して、[ENTER] キーを押します。
ファイナライズの実行画面に変わります。
ファイナライズが終了すると “Completed” が点灯して、CD-R/RW ドライブから自動的にディスクがイジェクトされます。

```

M>USB HOST>Finalize
-- CD FINALIZE --
If you finalized the
disk, you cannot reco
rd more.
Are you sure?
[EXECUTE] [CANCEL]

```

```

M>USB HOST>Finalize
--- USB HOST ---
Finalizing...

```

```

M>USB HOST>Finalize
--- USB HOST ---
Completed!

Press ENTER Key!

```

< 注意 > : “Track at once” で記録したディスクをファイナライズすると、追記録できなくなります。イジェクトされたディスクをドライブに再ロードして追記しようとすると、“Already Finalized” のポップアップ表示が点灯して、記録することができません。

- 10) 画面の指示に従って、[ENTER] キーを押します。
USB HOST メニューを選択する画面に戻り、“CD Finalize ▶” が反転します。

```

M>USB HOST(1/1)>Finlz
<<Back
CD Burn ▶
* CD Finalize▶
CD TOC ▶

```

ファイナライズ終了後TOC情報を確認するには、27ページ記載の「ファイナライズ後のTOC情報を確認」を参照してください。

- 11) [STOP] キーを押して、MENUモードから抜け出します。

画面上にある “<<Back” を選択して [ENTER] キーを押す操作を繰り返すことでも、MENUモードから抜け出すことができます。

“Track at once” または “Disk at once” で作成したオーディオCDは、下記図のようにCD-R/RWディスクに記録されます。

1つのステレオWAVファイルを “Track at once” で作成した場合：

トラック1 

“Track at once” で4つのステレオWAVファイルを追記して作成した場合：

トラック間に2秒の無音が作成されて分割されます。

トラック1 

トラック2 

トラック3 

トラック4 

 : 約2秒間の無音 (ミュート)

CUE01 (C01)のみが登録されているステレオWAVファイルを、“Disk at once” で作成した場合：

トラック1 

CUE01 (C01)以外に3つのCUEを登録したステレオWAVファイルを、“Disk at once” で作成した場合：

トラック間に無音が無く分割されます。

トラック1 

トラック2 

トラック3 

トラック4 

TOC 情報の確認

TOC 情報は、記録したディスクのファイナライズ処理前でも、ファイナライズ処理後でも確認することができます（“**Disk at once**” で記録したディスクはファイナライズ処理後のみ）。

特に、“**Track at once**” で複数のステレオ WAV ファイルを追記するときは、CD-R/RW ディスクの記録可能な容量（リメイン）を確認しながら作業することをお勧めします。

***TOC** : Table of contents の略で、音楽 CD のトラック（曲）数や、演奏時間などを管理するデータ領域を意味しています。

ファイナライズ処理前の TOC 情報を確認（“**Track at once**” で記録したディスクのみ）

下記操作は、前述の「オーディオ CD の作成」において、“**Track at once**” で記録したファイナライズ処理前の状態で、ディスプレイには“**CD Burn ▶**” が反転していることを前提にしています。

- 1) “**CD Burn ▶**” が反転している状態から [MENU] ダイアルで“**CD TOC ▶**”を選択して、[ENTER] キーを押します。

“**Please wait...**” を表示した後、記録した曲の記録時間とリメインを表示する画面に変わります。

```
M▶USB HOST(1/1)▶TOC
◀◀Back
CD Burn ▶
CD Finalize▶
▲ CD TOC ▶
```

```
M▶TOC▶TrackList
Please Wait...
```

```
M▶TOC▶TrackList(1/1)
▼ ◀◀Back REM:0h50m28s
Tr01:0h03m04s
```

- 2) TOC情報を確認したら、[MENU] ダイアルでカーソルを“◀◀Back”に移動して、[ENTER] キーを押します。

“**CD TOC ▶**” が反転する画面に変わります。

```
M▶TOC▶TrackList(1/1)
▼ ◀◀Back REM:0h50m28s
Tr01:0h03m04s
```

```
M▶USB HOST(1/1)▶TOC
◀◀Back
CD Burn ▶
CD Finalize▶
▲ CD TOC ▶
```

TOC 情報の確認後“**Track at once**” モードで追記録するには、“**CD BURN ▶**” を選択して [ENTER] キーを押した後、前述と同様他のステレオ WAV ファイルを選択して記録を続けます（前述 8 ページを参照してください）。

また、TOC 情報の確認後ディスクをファイナライズするには、“**CD Finalize ▶**” を選択して [ENTER] キーを押してください（前述 24 ページを参照してください）。

< 注意 > : “**Track at once**” で複数のステレオ WAV ファイルを連続して記録したディスクでは、下記例のように TOC 情報が表示され、リメインも確認できます。

```
M▶TOC▶TrackList(1/1)
▼ ◀◀Back REM:0h30m28s
Tr01:0h03m04s
Tr02:0h03m16s
Tr03:0h02m36s
Tr04:0h05m38s
```

ファイナライズ処理後の TOC 情報を確認

下記操作は、前述の「オーディオ CD の作成」において、“Disk at once” で記録後自動的にファイナライズされたディスク、または“Track at once” で記録後ファイナライズしたディスクが CD-R/RW ドライブからイジェクトされている状態で、ディスプレイは“CD Finalize ▶” が反転していることを前提にしています。

1) イジェクトされている CD-R/RW ドライブのトレイを、クローズします。

ドライブのトレイ前面を、手で軽く押し込んでください。ディスクをロードして、ディスプレイは“CD Finalize ▶” が反転しています。

```

M▶USB HOST<1/1>▶FinlZ
  ◀◀Back
    CD Burn ▶
  ◀◀CD Finalize▶
    CD TOC ▶
  
```

<注意>：トレイをクローズすると、ドライブがディスク情報を読み込むため、アクセス LED が点滅します。そのため、ドライブのアクセスが完全に停止して、アクセス LED が消灯していることを確認してから操作してください。

2) [MENU] ダイヤルで“CD TOC ▶”を選択して、[ENTER] キーを押します。

“Please wait...” が点灯した後、前述の「ファイナライズ処理前の TOC 情報を確認」と同様、現在記録されているトラックの TOC 情報を表示します。

ファイナライズ処理した後の TOC 情報では、リメインの値が“0h00m00s”を表示します。これは、ファイナライズ処理した後のディスクには、これ以上追記録できないことを示しています。

```

M▶USB HOST<1/1>▶TOC
  ◀◀Back
    CD Burn ▶
    CD Finalize▶
  ▲ CD TOC ▶
  
```

```

M▶TOC▶TrackList
  Please Wait...
  
```

```

M▶TOC▶TrackList<1/1>
  ▼ ◀◀Back REM:0h00m00s
    Tr01:0h03m04s
  
```

<注意>：“Track at once” で複数のステレオ WAV ファイルを連続して記録したディスクや、“Disk at once” で CUE リストを基に TOC を作成したディスクでは、下記例のように TOC 情報が表示されます(もちろんリメインは“0h00m00s”になります)。

```

M▶TOC▶TrackList<1/1>
  ▼ ◀◀Back REM:0h00m00s
    Tr01:0h03m04s
    Tr02:0h03m16s
    Tr03:0h02m36s
    Tr04:0h05m38s
  
```

3) TOC 情報を確認したら、[STOP] キーを押して MENU モードから抜け出します。

Home 画面に変わります。

<覚えておきましょう！>：本機で作成したオーディオ CD 以外に、市販のオーディオ CD も TOC が確認できます(注意：一部 TOC が表示されない市販ディスクもあります)。

CD-R/RW ドライブに市販のディスクをロードして、MENU モードの“USB HOST”メニューを使って、前述同様の操作を行ってください。なお、本機で確認できる市販ディスクの TOC 情報は、トラック数と記録時間のみのみで、トラックのタイトルなどは表示しません。

Fostex[®]

フォステクス カンパニー
国内営業グループ

196-0021 東京都昭島市武蔵野 3-2-35

042-546-6355 FAX. 042-546-6067